福井工業大学附属福井中学校　令和四年度　第Ⅰ期入学試験（国語）　その一

受験番号	氏名

一　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本に固有種が多いわけは、①日本列島の成り立ちに関係があります。日本列島は、はるか昔、大陸と陸続きでした。このとき、多くの動物が、大陸からわたってきたとされています。その後、日本列島は、長い年月をかけて大陸から切りはなされていきます。野生生物の分布をもとにすると、日本列島は北から北海道、本土（本州・四国・九州）、南西諸島の三つのちいきに分けられますが、それは、大陸から切りはなされて島になった時期が、それぞれのちいきでことなるためです。

資料２（省略）を見てください。②アマミノクロウサギの生息する南西諸島は、更新世（こうしん）前期に大陸から切りはなされて島になりました。アマミノクロウサギは、そのずっと以前に大陸からわたってきた古い種です。大陸では、その後もっと進化したウサギが栄えたためにほろび、アマミノクロウサギは③南西諸島の奄美（あまみ）大島と徳之島（とくのしま）でだけ生き残ったというわけです。このように他のちいきと分断されることによって、固有種は生まれるのです。同じように、本土にはニホンザルなど、主に更新世中期のものが生き残り、固有種になっています。

北海道が大陸とはなれたのは、完新世（かんしん）とよばれるひかく的新しい時代です。ですから、本土に比べて固有種が少なく、ヨーロッパまで分布しているヒグマなど、大陸と同じ種がたくさんすんでいます。イギリスは、さらに新しい時代に大陸から分かれたために、固有種がいないのです。

このようなことから、日本列島には数百万年前に出現したものをはじめ、さまざまな時代から生き続けているほ乳類が見られ、そのほぼ半数が固有種なのです。では、この④さまざまな動物たちが何万年も生き続けることができたのはなぜでしょう。それは、日本列島が南北に長いため、寒いちいきからあたたかいちいきまでの気候的なちがいが大きく、地形的にも、平地から標高三千メートルをこす山岳（さんがく）地帯まで変化に富んでいるからです。そのおかげで、さまざまな動物たちがくらせる、ゆたかで多様な環境が形づくられたのです。日本にやって来た動物たちは、それぞれ自分に合った場所を選んだことで生きぬくことができたのでしょう。そして、その場所は、今日（こんにち）まで長く保たれて来ました。固有種が生き続けていくためには、このゆたかな環境が保全される必要があるのです。

（今泉忠明「固有種が教えてくれること」）

問１　①「日本列島の成り立ち」とありますが、日本列島はどのようにできていきましたか。次の文の空らんにあてはまる言葉を書きなさい。

はるか昔は大陸と陸続きだったが、まず（　　）が大陸から切りはなされ、その次に（　　）、最後に（　　）がはなれて、日本列島ができた。

問２　②「アマミノクロウサギ」はどのような順番で固有種となりましたか。（　）に１～３を書きなさい。

（　　）　南西諸島が大陸から切りはなされた。

（　　）　大陸にいた仲間がほろびた。

（　　）　大陸から日本にわたり、南西諸島にすみついた。

（　４　）　南西諸島の一部だけで生き残り、固有種となった。

問３　③「南西諸島の奄美大島と徳之島でだけ生き残った」とありますが、大陸でアマミノクロウサギがほろびたのはなぜですか。

（　　）

問４　固有種はどんなことによって生まれるのですか。「～ことによって生まれる」につながるように答えなさい。

（　　）

問５　④「さまざまな動物たちが何万年も生き続けることができた」理由を二つ答えなさい。

（　　）

（　　）

問６　固有種が生き続けていくためにはどんなことが必要ですか。

（　　）

二　俳句について、次の問題に答えなさい。

問１　俳句について、次の文の（　）に合う漢数字を書きなさい。

俳句は原則として、（　　）・（　　）・（　　）の十七音でできていて、小さな「っ」や伸ばす音、「ん」も一音と数える。

問２　俳句に使う、季節を表す言葉を何といいますか。

（　　）

問３　「すずらんのりりりりりりと風に在り」（日野草城）の「りりりりりりり」とは何がどうしている様子をとらえた表現ですか。

（　　）が（　　）様子。

三　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

［父親が亡くなったことで、一度も外で働いたことのない母親が会社勤めをすることになったのは、洋が中学二年生、妹の美砂がまだ小学生の頃だった。］

【ア】日々、それなりに努力を重ねていけばどんなことでもある程度はできるようになるんだ。これは、実感。①ぼくの料理しかり。おふくろの会社勤めしかり。ここで重要なのは、努力っていうことのほうじゃなく、重ねていくっていうことのほう。これも、実感。繰り返すけど、ぼくの料理しかり。おふくろの会社勤めしかり。

【イ】まったく勤め初日のおふくろはひどかった。家に帰り着いたときはまるで瀕死の動物。ぐったりして息も絶え絶えだった。

「悪いけど十分だけこうさせて」

そう言って着替えもせずにソファに倒れ込むように横になった。

「ご飯までそうしてていいよ。おかず、買ってあるから」

と、ぼく。

だけど美砂は、小学生だった美砂はおふくろが横になっている側から離れようとしなかった。

「ママ、大丈夫？　ママ」

美砂は怖かったんだと思う。そりゃあそうだろう、父親が死んで母親までどうかなっちゃったらたまらない。

「大丈夫よ、ちょっとくたびれただけだから」

おふくろが手を伸ばして美砂の頭をなでる。

「②ママぁ」

美砂の声は半べそだ。

カウンターキッチンのこちら側でそんなふたりのようすを見ていたぼくは、もらい泣きしそうだった。いや、もらい泣きもなにも、僕が率先して泣きたいくらいだった。ぼくは泣き虫だから。

男の子はやたらと泣いたりしてはいけないということに世間ではなっている、ということを、十八になったぼくは知ってはいる。けれど、泣き虫な自分を恥ずかしいなんて感じたことはなかったし、いまも感じていない。おふくろのおかげだ。

【ウ】おふくろはぼくが泣きそうになったり、実際に泣いたりするたびに、ひざの上にのせたぼくを抱きかかえながら、「泣いてもいいのよ。好きなだけ泣いちゃいなさい。そうすれば、すうっとするから。男の子は泣いてもいいのよ」と言った。

だからぼくはおふくろのひざの上で、あるいは実際にひざにのっていないときでも、気持ちはやっぱりひざの上で、気がすむまで泣いた。

男の子は泣いていいんだ、とぼくは思っていた。単純に思っていた。

【エ】そしてあるときふと気づいた。男の子は泣いていい。じゃあ、女の子は？　そういえば、みいちゃん（小さかったころ、ぼくは美砂のことをそう呼んでいた）はちっとも泣かないな。

それでぼくはやっぱり泣きながら（というのは、泣いているときにしかそんなことは思いもしないものだから）、おふくろに聞いた。「③お、んなの子は、泣い、ちゃ、い、けないの？」「女の子？　女の子だって、もちろんいいのよ」「じゃ、あ、ママも、泣く？」「大きくなった女の子はねえ、泣いちゃいけないの」「ど、どうして？」「だってね、ご飯のしたくをしなくちゃいけないから」「ご、飯、のし、たくをする、んじゃなけ、れば、泣、いても、いいの？」「そうよ。だから洋は心配しないで、好きなだけ泣きなさい。」

ご飯のしたくをもち出すなんて。おそらくそれはおふくろの苦し紛れの理由づけで、ほんとうのところは、男の子のくせに泣き虫なぼくを気遣ってくれたのだと思う。十年ほどもあとになって、男の子であるぼくがご飯のしたくをするようになるなんて思いもしないで。

言葉にはたしかに特別な力がある。おふくろと美砂とのやりとりを見つめながら、ぼくが泣かなかったのは、おふくろのその言葉が、ぼくのこころのどこかのひきだしにはいっていたからじゃないかな。ご飯を作らなくちゃならないんだから、男の子だって泣いたりしちゃいけない。

たとえきゅうりやトマトを切ったりレタスをちぎったりするだけのサラダに、豆腐の味噌汁を作って、あとは弁当屋で買ってきた肉団子と鶏のから揚げを出すだけだとしたって、それがご飯のしたくであることには変わりない。

【オ】ぼくはふたりを見た。

美砂の頭の上にそっと置かれていたおふくろの手は力をなくしてだらんとしていた。おふくろ、そのままほんとうに眠っちゃったんだ。美砂は―美砂も、おふくろと呼吸を合わせるように、すうすう寝息をたてていた。

ソファの端っこに頭をのせている美砂の左側の顔が見える。安心したみたいな気持ちよさそうな寝顔だ。それからぼくはおふくろの顔も見た。④眠っているのに、眠くて眠くてしかたがないっていうような顔をしていた。梅干しをなめながらそのまま眠っちゃったようにも見える、すっぱいみたいな顔だった。

つけっぱなしのテレビでは、アナウンサーが落ち着いた声でニュースを読みあげていた。

眠ってしまったふたりを、そのふたりがいて、目いっぱいの明かりとテレビもつけっぱなしの部屋を、その明るくてあたたかな空間を、ぼくはカウンターキッチンのこちら側から見ていた。ただ黙って見ていた。

あのときの気持ちをなんてあらわせばいいんだろう。

不安なくせに満ち足りていて、（　⑤　）反面とてつもない幸福感に包まれていたあのときの気持ちを、いったいどんな言葉で言いあらわせばいいんだろう。

【カ】そしてぼくはそのとき、このふたりをぼくが守らなくちゃいけないんだ、と途方もない強さで思ったんだ。それは、ふたりきりの病室でおやじから「ママと美砂をよろしくな」って頼まれたからじゃなく、もっと突発的でより自発的な感じのものだった。

さらに白状してしまうと、そう思ったことに感動してしまって、じわっとこみあげてくるものさえあった。

⑥だけどぼくは泣かなかった。ぼくんちの眠り姫ふたりが目を覚ましたときに、ほかほかのごはんとあったかい味噌汁をすぐに出せるようにしておかなくちゃならないからだ。

そんなぼくの気持ちが通じたのか、まさにそのとき、炊飯器がおもちゃの蒸気機関車みたいにシュウシュウと音をたてて蒸気を吐き出し始めた。ご飯の炊ける匂いがしだした。

（石井睦美「キャベツ」より）　※問題はその三に続きます。

その二

受験番号		氏名	

問１　この文章を「ぼく」の年齢で三つに場面分けする場合、【イ】～【カ】の場面は１～３のどの年齢の場合になりますか。記号で答えなさい。また、（　Ｘ　）にあてはまる語を本文中からぬき出しなさい。

１　小さかったころの「ぼく」　（　　）

２　中学二年生の「ぼく」　（　　）

３　（　Ｘ　）歳の「ぼく」　（ア　　）　Ｘ・・・（　　）

問２　①「ぼくの料理しかり。おふくろの会社勤めしかり。」について

Ⅰ「しかり」の意味として適切なものを次から一つ選び、記号に〇をつけなさい。

ア　例外である　　イ　そのとおりだ　　ウ　かぎらない　　エ　どうだろうか

Ⅱどのようなことに対して「しかり」なのか、「～こと」に続く形で本文中から三十五字以内で探し、初めと終わりの五字を書きぬいて答えなさい。

（　　）～（　　）こと。

問３　②「ママぁ」と発言したときの美砂の心情を説明したものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号に〇をつけなさい。

ア　勤務初日なのにひどく疲れている母親を見て、これから先の生活が大丈夫なのかと不安になっている。

イ　会社勤めのつらさに涙を流す母親を見て、このような境遇になってしまったことを悲しんでいる。

ウ　帰った途端にソファに倒れ込む、母親を見て、早く晩ご飯の用意をしてほしいのにと不機嫌になっている。

エ　帰宅してぐったりしている様子の母親を見て、身体の具合が悪いのではないかとおそれている。

問４　③「お、んなの子は、泣い、ちゃ、い、けないの？」の「、」は「ぼく」のどのような様子を表現していますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号に〇をつけなさい。

ア　興奮してうまく言葉が出てこない様子。　　イ　しゃくりあげながらも話し続ける様子。

ウ　怒られないかとびくびくしている様子。　　エ　言いたいことが伝わるよう慎重に話す様子。

問５　④「眠っているのに、眠くて眠くてしかたがないっていうような顔」とは母親のどのような表情を表現していますか。最も適切なものを次から一つ選び、記号に〇をつけなさい。

ア　もっと寝かせてほしいという不服そうな表情。　　イ　寝ているのにまるで起きているかのような表情。

ウ　眠っていてもなお疲れ切っている表情。　　エ　やっと眠ることができてゆるみきった表情。

問６　（　⑤　）に入る言葉として最も適切なものを次から一つ選び、記号に〇をつけなさい。

ア　うれしい　　イ　やさしい　　ウ　おかしい　　エ　さみしい

問７　⑥「だけどぼくは泣かなかった」について次のように説明しました。空らんに当てはまる言葉を、ａ、ｂ、ｄは次数に合わせてぬき出しなさい。ｃは自分の言葉でまとめて答えなさい。

このとき「ぼく」が泣かなかったのは（　ａ…六字　）をしなければならなかったからである。

「ぼく」は言葉には（　ｂ…四字　）があると思っており、母親の（　ｃ　）という言葉が「ぼく」の（　ｄ…十九字　）からこそ、泣かなかったのである。

（　ａ　）・・・（　　）

（　ｂ　）・・・（　　）

（　ｃ　）・・・・（　　）

（　ｄ　）・・・・（　　）

四　次のぼう線部の読みをひらがなで書きなさい。

①先生と問答する。（　　）　②道順を示す。（　　）
③美しい景色を見る。（　　）　④討論を行う。（　　）
⑤技術を伝承する。（　　）　⑥海の干拓を行う。（　　）

五　次のぼう線部を漢字に直して書きなさい。送り仮名が必要な場合は送り仮名も書くこと。

①ミッセツな関係。（　　）　②身近なソンザイになる。（　　）
③家で犬をカウ。（　　）　④キョウミをしめす。（　　）
⑤タダチニ修理する。（　　）　⑥セイギをつらぬく。（　　）
⑦人工エイセイについて調べる。（　　）

六　あなたが小学校で一番がんばったと思うことについて自由に書きなさい。

・題名、名前は書かず、一行目から本文を書き出すこと。
・正しい原稿用紙の使い方で書くこと。
・習った漢字を適切に使い、書くこと。
・八行以上書くこと。

その四